

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	O174700971		
法人名	特定非営利活動法人 ママサポートえぶろん		
事業所名	グループホーム うらら花		
所在地	足寄郡足寄町旭町2丁目27番地1		
自己評価作成日	平成26年 2月11日	評価結果市町村受理日	平成26年3月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kan=true&JigyosyoCd=0174700971-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジエント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成26年3月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住宅改修型(1ユニット)で規模が小さいですが、利用者の方にゆったりした家庭的な空間で快適に過ごしていただけるよう利用者の個性や特性を生かす工夫や、その方の役割等をスタッフ会議で話し合いケアに実践しています。又、地域の自治会の花見や防災訓練等に参加し関わりを持つことで、地域の方々の事業所に対する認知度もあり協力体制を築けております。利用者の方の高齢化が進み施設外での楽しむことが少なくなっていますが、出来るだけ、心地よい居場所を提供しその人らしく過ごせるように取り組んだり、ADLや病状などに合わせた対応を検討し個々に合ったケアを大切にしたり、家族に3カ月ごとの体調や近況を報告しています。

<地域との連携>

事業所は地域の方々との交流を大切にし、自治会の花見や防災訓練に参加し、地域の協力体制を築いています。また、地域の方々の事業所の避難訓練への参加や地域の防災会から選ばれた地域協力委員がおり、火災や水害等の不測の事態に備えた連携や協力体制が築かれています。地域の小学校や中学校からインターンシップの受け入れや近くの公園に散歩に来る保育園児が事業所に立ち寄るなどして利用者で交流しています。

<職員を育てる取り組み>

事業所は、働きながらトレーニングしていくことを進め、資格取得へ向けて法人内での勉強会や研修会等を行い、現在はほとんどの職員が介護福祉士以上の資格を有しています。また、今年度は通信教育やスクーリング等の費用を法人で負担して、数名の職員の社会福祉士の資格取得に向け支援しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域で利用者本位のサービスを提供して行けるように事業所独自の理念をつくり上げ掲示し共有出来るように実践している。	事業所独自の理念をつくりあげ、職員会議や日常業務を通じて話し合い、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	花見、盆踊り、防災訓練など行事に積極的に参加したり、慰問の回数は以前より減ってはいるが、保育園児や近所の幼児が遊びに来て交流している。	自治会の花見は事業所の敷地内で合同で行い、地域の方々や地域協力委員と連携して火災や水害等の不測の事態に備えた協力体制が築かれている。また、小中学生のインターシップの受け入れや保育園児との交流も図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の防災訓練に利用者が参加したり、事業所の避難訓練に地域の方々が参加したいなどとして支援方法を検討している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に開催することで意見交換やサービス内容を報告しサービス向上に活かしている。	事業所の活動状況や地域との連携等について地域の方や町の職員、家族代表等の運営推進会議委員と具体的に意見交換を行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	来年度は定期的に年6回の開催を予定しているので、その実践に期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居者、待機者情報など必要があれば随時連絡を取れる関係にあり、担当者が来所した時など事業所の雰囲気や活動を話し知っていただき必要があれば協力を得ている。	町担当者や地域包括支援センター職員とは福祉関連の委員会や日常業務を通じて交流を図り、事業所内の実情を理解してもらい、気軽に意見交換できる関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の状況により必要時に玄関に施錠する事はあるが、身体拘束について研修会を開き共通の認識を持ち身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	管理者及び職員は外部研修や法人内研修を通じて、身体拘束をしないケアの理解や認識の共有が行われている。また、玄関は夜間の防犯目的以外は施錠は行っておらず、身体拘束や不適切なケアにならないよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法について研修会を開き共通の認識を持ち、虐待のサインや対応などを学び虐待防止のに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方がいないため実施していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に見学や質疑応答を行い重要事項や契約の締結、解約について理解していただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の家族や職員面接、会議を通じ要望や改善点を聞き入れ検討して最前と思われる対策を実施している。	家族の来訪時に近況報告や意見を言って貰えるように取り組むと共に、家族から意見や要望があれば速やかに話し合い、改善に向けて取り組んでいる。また、定期的に「うらら花日記」を発行し、利用者の日常や行事の様子を伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員面接、会議を通じ要望や改善点を聞き入れ検討して最前と思われる対策を実施している。	管理者は職員が意見や要望を言いやすい雰囲気作りを心掛けており、個人面談の実施や毎月の全体会議、日常業務の中で職員の意見、提案を聞き、運営やケアに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の向上心にに応じた研修に参加したり、個人の体調などを考慮した勤務体制、就業規則の整備、親睦会等を取り入れ働きやすい環境整備づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の能力に応じた研修に参加したり、資格取得へ向けて法人内での勉強会や研修会、他施設との勉強会など行いスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の同業者と研修会を開催する機会があり、サービスの質の向上のため情報交換など行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前に各種関係機関から情報提供していただき、ケアについて事前に職員間で検討し安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に見学や質疑応答を行い家族の方の要望や不安の軽減に努め良好な関係作りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始前に各種関係機関から情報提供していただき、サービスについて事前に職員間で検討し見極めに努めているが、他のサービスの利用については検討していない。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に家事など行ったり、会話する時などでも職員は聞き上手になるように努め長年の経験を活かした知識や知恵を教えていただき助け合う関係作りを大切にしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	会報誌、面会などを通じて日ごろの様子を報告したり、家族が参加できる行事を企画し共に本人の支えになれるような関係づくりに努めている。今年度から、3カ月分のバイタル変化、往診状況を文章により家族に報告している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者のADL低下や個人差はあるが、理容室や信仰の場などに定期的に行く機会をつくり支援している。	馴染みの美容室への訪問や地域行事、防災訓練参加等を通じて、これまでの関係が途切れないよう支援に努めている。また、同法人のデイサービスで昔ながらの友人・知人と相互に交流する機会を作っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性や能力を把握し作業をしたり、孤立感や上下関係をつくらぬよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要な方には面会、お見舞いを通じて関係が途切れないように支援し、家族にはその都度経過を聞くなどして支援に努めていた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者個人の生活背景や日ごろの様子をふまえ、個人の意向に添うように会議などで検討し実施している。また、聞き取りが困難な方には、個人が何を望んでいるかを酌み取り、その人らしい暮らしを検討している。	MDS方式のアセスメントシートを活用して一人ひとりの生活歴や生活する上での意向を把握し、その人らしい生活が送れるよう職員全員で情報を共有し、本人本位の支援になるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に事前に聞き取りを行い生活歴の把握に努めたり、日ごろの会話や家族に聞き取りを行い経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録や会議などで日ごろの過ごし方、し心身業況や出来ることの把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回の会議やモニタリングにより多くの職員の意見や本人、家族の意向を取り入れ現状に即した介護計画になっている。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族と話し合い、それぞれの意見や意向を反映させるよう取り組んでいる。また、毎月の職員会議で全職員で話し合い、意見を取り入れ現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日生活記録、ケアプラン実績を書くことで情報の共有ができており、計画の見直しに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	突発的な希望や一時帰宅、家族の宿泊、他の施設訪問など柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の防災、行方不明者捜索組織の協力体勢、町内会行事や保育園児の慰問など安全で生活を楽しむ事ができる支援を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	外来での診察が困難な利用者が多くなり、月に1回の往診していただいている、変化の少ない環境の中で診察できることから利用者への負担が軽減され、不安な事も相談できる。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。また、協力医療機関による医師の往診や事業所の看護師との連携で適切な医療を受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員の気づきや相談に職場内の看護師がいつでも相談できる状態であり、必要時には医療機関と連携を図る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院には情報交換、相談を行い本人の負担軽減に努めている。また、医療機関とも関係が築けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関する指針はあるが、現在まで重度化、終末期に携ったケースはない。	重度化した場合や終末期のあり方について、利用時には看取りに関する指針を提示し、早い段階から本人・家族と話し合い、事業所ができることを家族に十分説明しながら方針を職員間で共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が普通救急救命講習を受け対応の基礎知識を得ており、事故発生時などは管理者、看護師らに連絡できる体制ができています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間を想定した非難訓練も実施しており、地域の方も事業所の避難訓練に参加していただいている。また自治会の防災訓練にも参加しており地域の協力体制も築いている。	連合防災自治会と連携して夜間を想定した避難訓練を実施し、緊急時の地域との協力体制を築いている。また、地域の防災会から選ばれた地域協力委員があり、火災や水害等の不測の事態に備えた連携・協力体制が築かれている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個人に合わせた言葉かけを行いプライバシーの保護、人格を尊重に努めている。	法人内研修の実施や会議等でプライバシーや個人の尊厳を大切に支援をしている。また、個人情報の取り扱いについては十分注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日ごろの表情や発言、行動を観察し本人の思いを酌み取るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個人その日のペース大切に支援しているが、人力的な問題など職員の都合が優先されてしまう時がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日にあった衣類や化粧品、理容室に行ったり利用者個人の身だしなみが出来ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者間の関係で席を考慮したり、個人の食の好み形態に合った物を提供し、食事の準備や後かたづけを職員と一緒にやっている。	献立は法人の管理栄養士が作成し、利用者の嗜好や栄養バランスを考慮した食事を提供している。また、利用者の力を活かしながら食事の下ごしらえや食器拭き・後片付けを職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立で栄養バランスのとれた食事となっており、記録する事で食事、水分の摂取量の把握も出来ている。食事、水分摂取困難な方には会議で検討し個人に合った支援を実践している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者全員口腔ケアを実施しており就寝時には義歯を消毒している。また状態に合わせて歯科通院も行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の時間などを記録し利用者個人の排泄パターンの把握に努め、個人に合った排泄支援を行い失敗しないように努めている。	水分、排泄のチェック表を活かして排泄パターンや習慣を把握し、トイレで排泄できるよう自立にむけた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスのよい食事、毎日乳製品を取り入れ、水分量の確保と毎日適度な運動を行っている。個人に合わせ薬を使用し定期的な排便があるように支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の意向を確認し入浴しやすい環境を整えて入浴している。また入浴したがいらない方でもタイミングや声かけにより気持ちよく入ってもらうように工夫している。	週2回を目安に本人の意向を確認しながら無理強いないように心掛け支援している。また、一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	湿度、温度、音などに配慮し入眠を妨げないようにしたり、個人の睡眠状況を把握し安定剤、眠剤の服用や日中の過ごし方など考え取り組んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	診療記録や薬の作用をファイルいつでも確認できるようになっており、事業所の看護師により観察の注意点など相談や助言を得ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個人の出来ること、出来ないことを見極め家事や作業をしたり、散歩や外出の機会を設け楽しみや気分転換の支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の方の高齢化により外出の機会は減ったが、散歩、買い物を日常的に行い、希望があれば個別に外出できる機会を設けており、地域の行事や家族も参加していただく行事を行っている。	出来る限り、一人ひとりのその日の希望にそって、散歩や買い物等で戸外に出かけられるように支援している。また、外気浴や町内会行事への参加、道の駅や近郊の観光地への気分転換のドライブ等家族と一緒に過ごせるような行事を開催するなど工夫して取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理能力低下にともない、事業所でお金を保管しているが、本人の希望があればいつでもお金を使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望あればいつでも電話を使用、手紙のやりとりができ、思うように話せない利用者には職員が変わりに内容を伝えるなど支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	湿度、温度管理を行い、季節感が出るように居間に写真や季節の飾り付けを定期的に変えて、談笑できるようなスペースを3ヶ所設けることで利用者が居心地良く過ごせるように工夫している。	共用スペースの壁には季節に合わせた飾り付けや行事や日常生活の様子の写真が掲示され、生活感や季節感を採り入れ居心地よく過ごせるような空間になっている。また、利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	3ヶ所に談笑できるスペースを設けることで気の合う利用者同士で過ごせたり、一人で過ごす事が出来る。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の部屋には昔から使われている家具や小物、仏壇などを置き心地よい居室に配慮している。	居室には、本人や家族と相談しながら、使い慣れた家具や寝具、家族の写真等が持ち込まれて、本人が居心地よく過ごせるような空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり、センサーマット、介護用具を用いたり、必要に応じて家具などを移動し日常動作が安全に送れるように工夫している。		

目標達成計画

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	38	利用者のADL、意識レベル状況の差が大きく開き変化し続けている状況の中、多様な対応が求められているが、人員が足りない時など業務が優先されてしまうことや、およその業務の流れが決まっている中でのスタッフのモチベーションの低下が危惧されている。	全体の中の利用者ではなく、利用者個人の気持ちを尊重し、個人に合った楽しみや快適な居場所を提供して行き、スタッフの仕事へのモチベーションの低下を予防する。	会議などを通じ利用者個人を優先にとらえた共通の意識を持ち、利用者の立場にたったケアを模索・検討して行く。また、スタッフの思い・考え・取り組んで行きたい内容なども検討しモチベーションの低下の予防に取り組む。	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。